

中学で始まるもう一つの新しい勉強

一年生の皆さん、竹取物語と、日本に影響を与えた中国の話には興味もてたかな。今はわからなくてもいいよ。興味さえもてればね。後は、授業を心待ちにしているね。さて、今日からは、古典と共にもう一つ中学校が始まる国語の勉強について話をするね。新しいと言っても、実は君たちがすでにマスターしていることだから心配しないで。日常生活で自然にやっていることだから大丈夫だよ。

その勉強とは「文法」です。「日本語のきまり」です。そんな決まりを勉強しなくても日本語を自由自在に使っているよね。でも、それで安心してはいけないよ。日本人なら正しく美しい日本語を使うべき。それが言語に誇りをもつということです。

日本語は本当に難しい言語だと思うよ。文字の種類は漢字、ひらがな、かたかなの三種類を基本として、そこに最近アルファベットも入ってきているよね。それに比べたら英語はアルファベットだけでしょ？（英語の先生に怒られるかな。）A L T のリンジーも「漢字が本当に難しい」と言っているよ。文法には例外が多いし、曖昧な言い方も結構あるからね。それを使いこなしている日本人って、本当にすばらしいと思うなあ。

おっと、話がそれってしまったね。具体的な文法の話に入ろうね。下の写真は、小学一年生の国語の教科書にある「たぬきの糸車」という話の部分です。小学校の一年生の教科書には、**国語の勉強を始めて間もない子どもたちのために、ある工夫がなされています。**それは一体何だかわかりますか。中学の教科書にはそれがありません。よく比べてみてね。題名を見てわかるよ。

ここから文法の話は始まります。「漢字が少ない」「文字が大きい」「行間が広い」ということではないよ。答えと、そこから勉強できる文法は、次回に教えるね。二、三年も文法の復習として考えてみてね。

（五月九日分）

